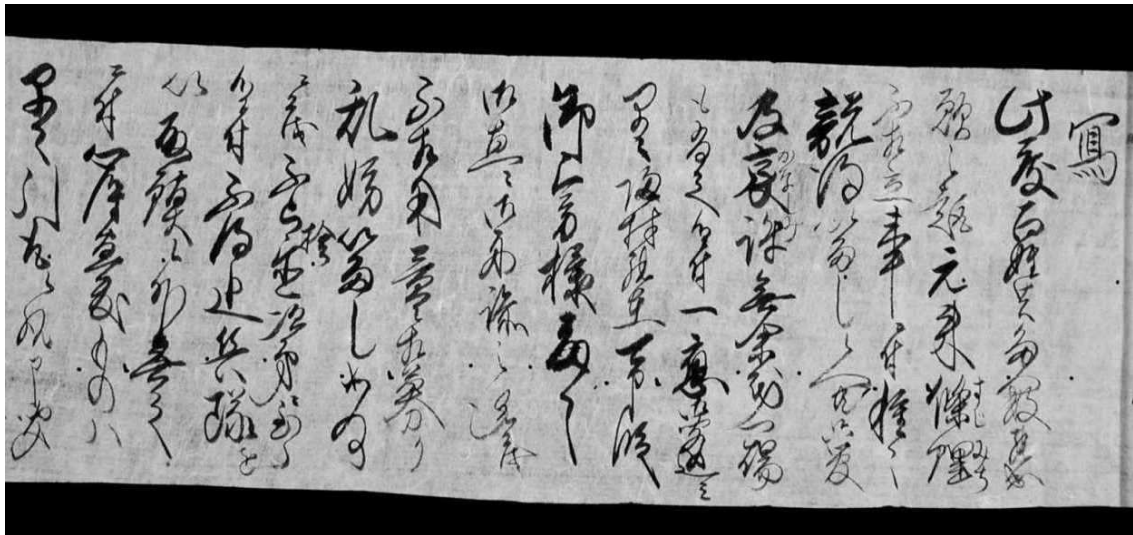


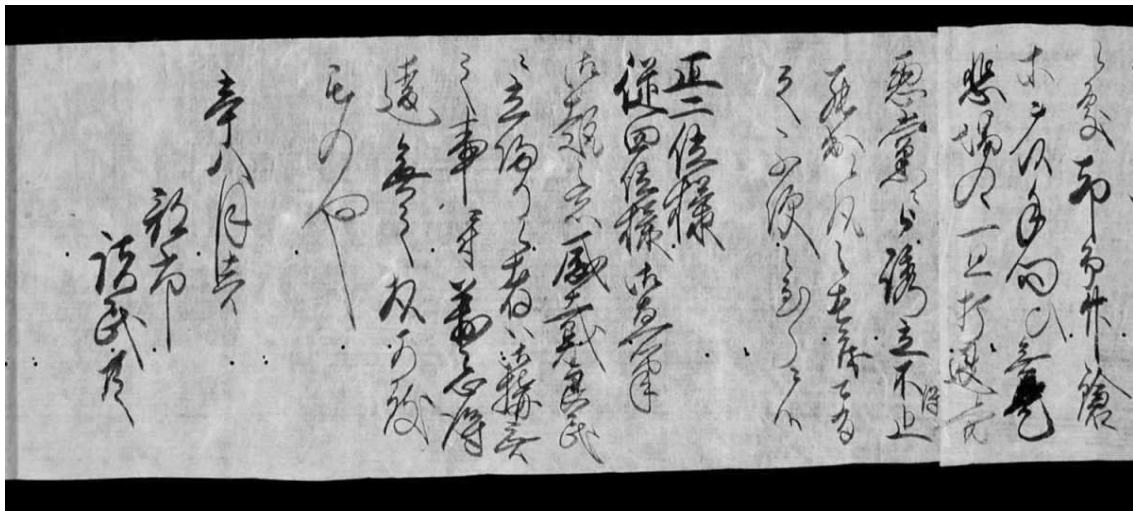
掲示写 (明治4年(1871)8月12日)

重川家文書(8826-381-7)

8月13日には、兵による鎮圧が開始された。初めは空砲で威嚇が行われたが、民衆らも竹槍で抵抗したため実弾が使用され、26人の死傷者が出ている(『芸藩志』)。この文書は兵による掃討が一段落したあとで広島城外に掲示されたものの写しである。やむなく兵隊で鎮圧したが、「良民」に立ちかえればお構いなしと述べている。



寫(寫)
 此度百姓共多人数罷出、
 願之趣元來條理すじみち)
 不_レ相立_二事_一二付、種々
 説得いたし候へ共、只管
 及_二哀かなしみ訴_一無_レ余義_一一端
 也_(念)
 も有_レ之候_二二付、一應御聞込_三
 早々帰村罷在可_レ申段、
 御三方様度々
 御直々御示諭之趣_茂
 不_レ相用_一、益々相募り
 乱妨いたし、如何
 二_茂不_レ被_レ捨置_一次第二至り
 候_二二付、不_レ得_レ止兵隊を
 以取鎮候外無_レ之
 二_付、心得宜敷ものハ
 早々引取候様申聞



候處、却而竹鎗

等ヲ以手向ひ、無_二是

悲_一場合一旦打退候へ共、

悪党_二被_レ誘立_一、不_レ得_レ止

罷出候様之者_共可_レ有_レ

之、不便之至_二候

正二位様

従四位様御直筆

御趣意感戴、良民

二立_レ歸_レり候者八御構無_レ

之事_二付、萬々心得

違無_レじ之様可_レ致

もの也

辛八月十二日

郡市

諸民共